

保育におけるかわいいものの選択理由 —保育者へのインタビューを通じて—

A Study of Reason for Choosing Cute Things in Preschool : Based on Interviews with Childcare Workers

武 内 裕 明*

Hiroaki TAKEUCHI*

要旨

保育者へのインタビューを通じて、保育者が保育の場でなぜかわいいものを使用するのかを検討した結果、実際の壁面製作等の選択に際してかわいい見本が掲載された保育雑誌や製作参考書を参照することによって、保育者はかわいいものを選択していることが明らかになった。選択に際しては、保育者の好み、子どもの製作、簡単さの3点が基準となっていた。また、保育の場にかawaiiものがあるというイメージや、個々の子どもの好みの差を認識しつつも、子どもは平均的にかわいいものが好きだというイメージがかawaiiものを使用する背景に存在していた。保育者たちは子どもの個々の好みや教育的観点からかわいいものを使用するための理由を感じることもあるものの、保育の場がかawaiiものが用いられているという認識をベースにしているため、その使用自体に疑問をもたない限りは、望ましいものとしてかわいいものを選択していた。

キーワード：かわいいもの、保育者の好み、子どもの製作、簡単さ、保育雑誌と製作参考書

はじめに

保育の場にはかわいいものがふさわしいというイメージは、日本の場合確かに存在しているように思われる。このようにかわいいものが選ばれる背景にはどのようなものがあるのかは、数少ない研究はあるものの、保育の分野において十分に検討がされているとはいえない状況にある。

かわいいものを使用については、これまで主かわいい絵本が選択される傾向に懸念をもつ論者たちによって議論がなされてきている。

伊藤（2004）は、かわいい本が選り分けられる事例から、「色が鮮やかで（暖色系・パステル系）、形・輪郭線が丸い…幼児体型。あどけないしぐさ。アニメキャラクター」¹⁾などの共通点を認め、かわいい本を選ぶ理由として「子どもは「かわいい」から、「かわいい」本がいい²⁾、「お母さん自身が「かわいい」本を好きだから、子どもに読んであげたい³⁾」という2つの理由を挙げている。

中村（2007）は、保育者を目指す学生がかawaii絵

本を好むのは絵や見た目のかわいさのためであり、内容が抜け落ちて「「かわいい」が一人歩きしている」⁴⁾現状を指摘し、「「かわいい」は、人を困らせもしないし、無害で、安心感もあって、だれにでも好かれ⁵⁾る点を挙げつつ、無難さが生きていくことの生々しさを漂白するのではないかと危惧を表明している⁶⁾。それでもかわいい絵本が選ばれる理由としては、自分が子どものころに与えられてそういうものだと刷り込まれていること⁷⁾と、「子どもは「かわいい」ものだから、「かわいくて、安全で、無害」な絵本がふさわしい⁸⁾」ことの2点を挙げている。

石井ら（2013）の座談会でも、なぜかわいい絵本が選ばれる傾向にあるのかが議論されている。石井は「買い与える大人が子どもにはこういうかわいいものがいいって選ぶから、商業的にはそういう本が並ぶんだと思う⁹⁾」と指摘し、絵本や保育雑誌に潜む商業的なかわいさを危惧している¹⁰⁾。石井は、かわいい絵本が選ばれる理由として、学生が「子どもってかわいいからってというイメージで、かわいい傾向の絵本を」¹¹⁾

*弘前大学教育学部学校教育講座

Department of School Education, Faculty of Education, Hirosaki University

選ぶと考えている。

以上のように、絵本に関する議論では、大人が子どもに選ぶものとしてかわいい絵本が語られ、選択の主要な道筋として、子どもがかawaiiからかawaiiのものがいいという論理の錯誤が指摘されている。しかし、それらは必ずしも子どもが望むとは限らず、かawaiiことの無害さや無難さが、子どもの発達にとって適切とは限らないことが危惧されるのである。また、実験的手法で、絵本の絵の効果を検討した中澤ら（2005）は、同じ物語の絵本を用いることで、かawaii絵本が5歳児に好まれ、物語理解には影響を及ぼさないが、イメージ形成を妨げることで想像力を抑制していることを明らかにしている¹²⁾。かawaii絵はそうでないものと比べてイメージの余地を残していないといえよう。この点に関して、中澤らも幼児の発達という軸から注意を促している¹³⁾。

以上のように、保育におけるかawaiiものの使用に関しては、日本社会でかawaiiことが肯定的な価値として認知され、「カワイイ」が日本発の文化として世界的に知られていく21世紀初頭¹⁴⁾には、望ましい絵本が選択されないという絵本関係者の危機意識を背景に問題を形成するに至っている。しかし、絵本関係者が指摘する子どもがかawaiiからかawaiiのものが選ばれる、とする見解には疑義がある。また、絵本の選択の場合のように、商業性によって選ばれるべき絵本が選択肢に入らないことが危惧される等、問題の軸を明確にもたない人が多数であることを踏まえれば、この種の批判的な見解が主流であるとは見做し得ない。

三木（2006）は、学生の幼児向けの名札のデザイン選択において、まず学生個人の好みを基準に、次いで子どもが好むものを選択していることを明らかにしている¹⁵⁾。また、回答数や回答率は量的調査としては十分でないものの、アニメキャラクターが園にさまざまな形で存在していることや、子どもの親しみや、安心感、興味、コミュニケーションの手段などとして、回答者の7割が幼児教育にキャラクターが必要であると考えていることを明らかにしている¹⁶⁾。三木は、「キャラクターの持つ不思議なパワーを保育に活用」¹⁷⁾する保育者に感心し、キャラクター使用に関する判断を留保するに至っている。武内（2014, 2014）は一連の幼稚園教育実習生へのインタビューを通して、保育観や子ども観の類似や相違を問わず、程度の差はあれかawaiiものが望ましいとみなされがちであること、その主な理由として、親しみやすさや、楽しさ、女の子を中心とした好みへの対応などの理由が存在しているこ

とを明らかにしている¹⁸⁾。武内の研究でも、子どもがかawaiiからという類似性が理由として、かawaiiものが選択される例は見られない。

これらを踏まえれば、少なくとも保育関係者の場合、子どもをかawaiiと認めることとかawaiiものを積極的に用いることは直結していない。したがって子どもをかawaiiと思うことによりかawaiiものを選択するケースは主要な問題を構成しないと見做してよい。筆者自身も、当初仮説的に子どもをかawaiiと感じることがかawaiiもの使用につながるのではないかという発想をしていたが、現在では保育の場がかawaiiものを望ましいと思うことと子どもがかawaiiと思うこととは独立したものであると予測している。

しかし、これまでの主要な議論は、主に子どもの発達への影響などを問題意識とした、かawaiiものが選ばれることに疑義がある一部の保育者か、保育者養成校の学生を対象とした検討に留まっており、かawaiiものが選択される際の主要な決定者であるはずの保育者の考えは十分に明らかにされていない。

そこで本研究では、保育者を対象としたインタビューから、保育者たちがなぜかawaiiもの¹⁹⁾を選択するのかを明らかにすることを試みる。

2. 研究の方法と対象

本研究では、一人当たり30分程度の半構造化インタビューを通じて、保育者が保育で大切にしていること、子どものイメージ・子どもらしさ、かawaiiもの使用及びそれに対する見解、の3点を主に確認し、それらのデータを基に考察を行った。

調査対象は201X年に東北地方の中規模都市であるA市において協力の得られた、国公立、私立園勤務の保育者11名（すべて女性）である。インフォーマントの情報や見解の概略は表1にまとめている。

3. 結果及び考察

3.1. 保育イメージとの関連

3.1.1. 安心感や楽しさとの関連

保育者たちのインタビューにおいて、保育で大切にしていることとして頻繁に挙げられている項目としては、楽しく過ごせること（A, B, D, E, F, G, H, K）、子どもに対する理解をすること（A, C, E, H, J）、安心できること（A, D, H, I）などがある。また、前提としての安全について言及されることも何度かあった。それらを基盤として、集団生活でのルールや、一緒に活動する楽しさを大切にしながら、何らか

表1 インフォーマントの保育で大切にしていること、子どものイメージ・子どもらしさ、かわいいものの使用

名前	国公/ 私立	年代 (保育歴)	保育で大切にしていること	子どものイメージ・ 子どもらしさ	かわいいものの使用
A	私	40前(24年)	子ども一人ひとりをよく知る・子どもになりきって遊ぶ・子どもが安心して遊べるように・楽しいねって気持ちをわかり合う	意外と大人／やっぱり子ども・嫌なことや疲れを浄化してくれる・喜ぶ・楽しむ・笑顔で笑う・夢の世界が残っている・素直に表現	使う／保育雑誌等参考にする いろいろなものを感じ取ってほしい・イメージを広げるきっかけ・作るときアイデアのきっかけ・雰囲気や和らぐ・季節や行事に合わせて・年齢に合わせて使用・流行がある
B	私	30後(16年)	いろいろな楽しさを共感する・遊びの幅を広げる・楽しさや意欲を引き出す	特に意識して過ごしていない 発想力やイメージがある・素直で純粋	使う／保育雑誌等参考にする 動物や人などかわいいと思えるものを用いる・園に来やすい・雰囲気がいい・「かわいい」と言ってくれる・学校のように殺風景でなく楽しいと思える・親との別れなどで気が紛れる・月ごとに取り換える・時代に合ったものを使用・型紙が便利
C	私	20後(9年)	子どもの発言は大事にしたい・興味や好きなものを理解して子どもの気持ちに寄り添う・集団で得られるものがある	単純、素直・場を和ませてくれる・いるだけでかわいい・空気が読めない	使う／保育雑誌等参考にする 明るく子どもの来られるかわいらしい場所にするため・どの園でも装飾は必ずある・色を選ぶときも明るいものを・子どもの目線やサイズでみたときにちょうどいいからかわいい・描くときの参考になる・型紙に合わせてかわいく・部屋とのバランス・行事や季節感に合わせる・手作りの価値
D	国公	50前(26年)	子ども同士で触れ合ったり考えたり解決させる・みんなで感動や共感できる遊びや活動をする・安心感をもって自信をもってもらいたい・みんなと一緒に暮らして楽しい場	人間としてほぼでき上がっている・個性もある・大人と同じ	使う／保育雑誌等参考にする 自分の好み・子どもや保護者が喜ぶ かつては興味関心遊びに合わせて・今は私立園のようにいろいろなところに飾る・保護者のニーズ(頑張っている幼稚園とみられる)・安くてかわいい・用いる技術の次にデザインや好みで選ぶ
E	国公	20前(1年)	子どもの気持ちを受け止めて話す・楽しいと思える・子どものやりたいことを一緒にやる・遊びの充実を援助・将来の土台作り	かわいい存在・独特の発想や見方・無邪気	使う／保育雑誌等参考にする カラフルなほうが目にも刺激を与える・幼稚園は暗い色より明るい色を使うほうがいい・気持ち上がる・幼稚園らしい(家庭の延長の保育園では必要ない)・ハンカチや髪型等もかわいいと思ってくれるようにする・キャラクターがついているものを選ぶ・季節を理解できる・部屋を明るくする・子どもと作れる楽しい壁面・雑誌を参考に嫌な部分を変える・顔のかわいさで選ぶ・淡い色調や明るい色・キラキラしない目
F	国公	40前(9年)	楽しく生き生きと幼稚園に来られる・気持ちを解放・集団生活のルールを教える・やってみようは援助して実現	普段意識していない 純粋・全身で表現	あまり使用しない／保育雑誌等参考にする 全ての子どもがかわいいものを好きだとは思わない・かわいいのが好きな子、全然興味のない子がいる・保育園とかにいけばキャラクターが必ずある・好きな子は女子っぽい・好みで壁面のデザインを選ぶ・子どもの興味も気にする・子どもたちが喜んで作ったほうが楽しい
G	国公	30後(15年)	安全・楽しんで盛り上がってほしい	正直に自分の意見をぶつける・何をやってもかわいい	使う／保育雑誌等参考にする かわいいもの／かわいくないものなら絶対かわいいものを選ぶ・子どもがかわいいものを選ぶと思う・かわいいと作るうって気になる・かわいいものを基準に壁面構成を選択・子どもが作るものをまず選ぶ・甘い感じがするのが今の壁面・アニメはあまり関係ない
H	国公	30後(1年)	子どもが今どんな気持ちでいるのかを考える・安心した気持ちで過ごせた、面白い日だったという気持ちでもらえればいい・遊びのなかで気づかせたい部分はある	素直・かわいいものとかおもしろいものを見るとすごくいい表情をする・すぐ泣いたり怒ったりもする・汚れても平気、楽しいのが好き	使う／保育雑誌等参考にする 自分の好みものをつくらせたい・本物らしいよりはかわいらしい、キャラクター的なもののほうが好き・好きな遊びで使っていたものを選ぶ・かわいいものや繊細なものへのセンスは身につけて欲しい・見本・子どもができそうなものを選ぶ・製作時間・かわいいものだけに拘りたくないかもしれない・製作では基本的なかわいらしいもので簡単に

名前	国公/ 私立	年代 (保育歴)	保育で大切にしていること	子どものイメージ・ 子どもらしさ	かわいいものの使用
I	国公	30前(7年)	安心して過ごせる・子どもたちが好きなように、自由な発想を持てる・個性を潰さない・幼稚園は集団活動・自分らしさを見つける	大人にとっては癒される・見ているだけで幸せな気持ちになる・大変な時もあるけど救われる・あまり考えずにやってみて、失敗してもめげずに挑戦していくところ・キャラクターもの、キラキラしたものが好き	使う／保育雑誌等参考にする 年代や関わる子どもに合わせる（年少はできればかわいく、年中はかわいいものも実物に近いものも・年長は本物に近いもの）・年少は最初入りやすい環境づくりをしたほうがいい・歳を重ねると現実にはないものをイメージしていくと将来困る・製作雄飾り方も考える・何を子どもたちに作ってもらうかによる
J	国公	40後(1年)	遊びのなかから何かを気づかせていく・5領域のものを保育者がどう園児に投げるか・子どもの見とり・発達段階に即した提案の仕方	体験ひとつで変わってつかみどころがない・自分の感情に素直・感情を表に出すところが難しいけどかわいい	評価としては使わない かわいいというイメージ像で褒めたり話したりはしない・壁面にかわいさは求めていない・他の幼稚園の飾り物もかわいいと思ったことはない・一生懸命作ったという子どもの行為にかわいさを感じる・作品のキャラクターの行為がかわいい・子どもの作品を貼る・子どもの手作りのほうを好む
K	国公	40前(10年)	その子に合った指導・親の考えに沿うように・子どもが楽しくということの前提として一番気を使っているのは安全・幼稚園に行きたいな、お友だちと、先生と遊びたいなって思ってもらえるのが一番	あまり意識していない 小さい・純粋・夢がある・嫌なことがあってもすぐ立ち直れる・いろいろやってみたいところ・ぬいぐるみとかが好き	やや使う／保育雑誌等参考にする 私の感覚でかわいいなって思うものは取り入れている・お部屋の環境に取り入れるぐらい・あんまり殺風景なものも幼稚園らしくない・ちょっと楽しい感じに感じられるようにあるといいかなぐらいの・自分の好きなキャラクターや動物が置いてあると心理的に安心する・幼稚園では必要・丸いもの、ふわふわしてるもの、小さいものがかわいい・自分のテンションが上がる・年齢が関係する・子どもの作品はかわいいと思っている・教師の都合でかわいくなる・保育雑誌に頼るからかわいくなる・簡単に作れて、季節を感じられて、見栄えがするかわいいもの・子どもができそうなもの・貼るスペース・みんなに好かれるものを選んでしまう

の教育的意図をもった活動をしていると解釈できる。

インタビューですべてが言語化されるわけではないことや、子どもたちの主要な教育活動である遊びに言及されていることを考慮すれば、保育者たちは基本的にはそれぞれの子どもを平均的・個別的に理解し、子ども達が安心して、楽しく過ごせることを大切にしていると考えられる。同時に、安心感や楽しさはかわいいものを使用する理由として頻繁に挙げられていた。

無機質なところよりは、かわいいものがあれば安心して過ごせるんじゃないかと思いますので、飾らせていただいています。(A)

年少さんと環境的にほんわかした雰囲気、最初に入りやすいような環境作りをしたほうがいかなところと…(後略)(I)

やっぱり子どもの心理的にそういうものを見ると、自分の好きなキャラクターとか、そういう動物とか、そういうものがあれば安心するのかなっていう。(K)

例えば玄関にああいう【かわいい：筆者補足】

ものがないところに来たりしても、全然楽しいと思えない…楽しいと思えないわけではないんですけど。(B)

あんまり殺風景なものも、幼稚園らしくないってうか。やっぱり子どもたちが見て、喜びそうかなって。お部屋の中がちよっと楽しい感じに感じられるように【かわいいものが：筆者補足】あるといいかな、ぐらいの。(K)

とりわけ安心感に関しては、年少の保育室や玄関、殺風景に思える場所などの装飾に関して言及される傾向にあった。楽しさに関しては状況の限定は見られず、子どもの反応を予想して、望ましい状況を作ろうとしているようであった。

安心感や楽しさにつながる工夫として保育者はかわいいものを用いようとする面があり、保育でそれらを大切にすることはかわいいものの使用を促進していると考えられる。

3.1.2. かわいいものがある園というイメージ

保育で大切にするとまではいかなくとも、保育者の

間で、幼稚園・保育園はかわいいものが当然のようにあるというイメージが存在している。

どの保育園、幼稚園に行っても装飾って必ずあったり。(C)

例えば保育園とかに行けば、もううさぎさんとかパンダさんとか、クマさんとか何かそういうのとかって絶対ありますよね。(F)

さらに、かわいいもののイメージに付随してくる明るさ、というイメージと幼稚園が明るい場所であることが望ましいというイメージも関連している。

やっぱり幼稚園って、そんな暗い色使ってもなって思っ。…(中略)…新しい幼稚園、保育園は、壁がピンクだったりとか緑だったりとかする幼稚園とかもあるので、そういうところはもうあんまり必要ないかなって思うんですけど、普通の建物でやってる幼稚園、保育園あるじゃないですか。そういうの、やっぱり色が入ったほうが、差し色じゃないんですけど、きれいかなって個人的に思うんですね。(E)

保育者たちのなかには、子どもたちが過ごす場所が明るい、楽しそうな場所であるほうが望ましいと考えている者が一定程度存在し、そのような判断に支えられた現状からか、幼稚園や保育所はどこもかわいいものがあるというイメージを共有していた(G以外)。そのような状況が好ましいかに関しては判断が分かれていたが、保育の場には一般的にかわいいものが存在する、というイメージは、常識として保育者たちの行為を規定していると考えられる。

3.2. 子ども観との関連

3.2.1. 子どもの個別性の認識

保育者たちのインタビューにおいて、子どもに関するイメージを出してもらうことには戸惑いも多かった。普段個別の子ども達を見る保育者にとって、その豊富なイメージを総合した一般的な子ども像を思い浮かべることは明らかに無理があったと考えられる。そのため、保育者たちからは、しばしば「特にそう意識して過ごしたことはないんですけど」(B)のような前置きがおかれた説明がなされている。意識していないという背景には、大人との区別が明確にできるような特殊な対象として子どもをとらえていないこと

もうかがえる。

子どもに関わらない仕事をしている方から見る子どもって、ちっちゃくってかわいくって、こう保護してあげる存在だっていうふうに見てると思うんですけど、実際接していると、もう3歳児でも、一人の人間として、ほぼでき上がってるなっていうこととか、個性ももうできちゃってるなっていうこととか…(D)

保育者たちは過度に子どもという概念を形成せず、特別視しない形で保育にあたっているようである。

質問に答えて、保育者たちは、純粹・素直・無邪気、癒される、かわいい、意外と大人、全身で表現する・思ったままに行動できる、などの説明をするが、純粹さなどを除いては個人差も大きく、またこれらのイメージが直接的にかわいいものを用いることに影響するとも考えられていなかった。むしろ、保育者たちは子どもの個別性の見とりから、必ずしもかわいいものが好きとは限らないということに気づいている場合がある(A, C, F, H, I, K)。また、男女でかわいいものに対する好みの違いがあるというレベルでかわいいもの以外に対する好みも指摘される場合も存在する(G)。例えば、Fさんは、女の子たちの間でも、かわいいものに全く興味のない子どもたちがいることに触れている。

【かわいいものに：筆者補足】全然興味ない人もいますよね。…(中略)…今日さっき遊んでた時も、こっちでお姫様〇〇ちゃんたちがやってても、全然興味ないのって感じではたきを出して、お掃除するからって言って、はたきだしてきて何かこうやってたりとかやってたので、あ、この人たち、本当に興味ないな、って思うんですけど…(後略)。(F)

これらは、子ども観とかわいいものの使用が独立したものであることを予測させる。しかし、保育者たちは子ども達一般の好みの傾向も考慮して保育を進めている。

3.2.2. かわいいものが好きという平均像

個別の子ども好みの様々であることを理解していることは、それぞれの好み対等に扱われることを意味しない。保育者からすれば、平均的な好みを前提

に、環境を設定するからである。

個々に聞けば、そういうの【かわいくないもの：筆者補足】が好きな子はこう、少数かもしれないけどいる。いるとは思っただけど、保育室っていう一つの環境ってなれば、みんなに受けるっていうか、みんなに好かれるものを選んでじゃうのかな。虫好きだからって、ダンゴムシの写真があって保育室に貼っても、それで喜ぶのは一人ぐらいしかいないとかなれば。(K)

個々の好みの差に言及したかどうかに関わらず、子どもが一般的にかわいいものを好むと判断している解釈できる言及をした保育者も半数程度存在している(B, D, E, G, I, K)。子どもの好みの差異にも触れた人たちの方が、個々の違いに敏感であったことは予測できるが、それ以外の人たちも安易にすべての子どもがかわいいものが好きであると思っているわけではないだろう。子どもはかわいいものが好きだと考えていることは、一般的には子どもはかわいいものが好きである、というイメージを有していると解釈すべきである。そのイメージは、子どもたちの傾向や言動によってさらに強化される。

うちの園は、1か月に1回、保育室の装飾とか、玄関のああいうものとか取り換えたりしてるんですけども、やっぱり、月が替わって次の日幼稚園に来ると、子ども達、やっぱり毎月一回変わっているああいうのを見て、「あ、かわいい」って言ってくれたりするんで、それにこたえようと思って、選んだりとか、作ったりしているのだからって、自分で思っています。(B)

以上のように、保育者たちは個別の子どもが必ずしもかわいいものが好きなわけではない、ということを理解しているし、安易に一般化された子どもイメージを強固に有しているわけではなかった。ただし、好みの傾向として、かわいいものが好まれると考える保育者たちも存在しており、子どもたちの平均像としてかわいいものが好きであるというイメージを有している。以上のことから、はじめにでも扱ったように、子どもイメージと独立した概念といえるのは、あくまでも子どもがかわいいからかわいいものがふさわしいという関係性であって、一般的に子どもはかわいいものを好む傾向にある、という平均像はかわいいものの使

用に影響しているといえる。

3.3. かわいいものの使用

保育者たちがかわいいものを使用する理由を尋ねることは困難であり、理由を尋ねた場合には、園の雰囲気をよくして子どもが来やすいように、季節の変化を感じてもらうため、といった意義がしばしば説明される。しかし、これらの答えは、たとえば季節の変化を感じるためにそれが他より有用なのかを検討しているとは考えにくいなど、他の何かでなくなぜかわいいものなのかに対する答えとしては十分ではない。そこで、保育者たちが参考にしていてと考えられる製作参考書を提示して、どのように壁面構成を選ぶのかと聞き方を変えてみると、保育者たちの多くは、保育雑誌のなかからいくつかの視点で製作物を選んでいくことが明らかになった。

3.3.1. 選択肢を決定する保育雑誌や製作参考書

かわいいものの使用される最大の理由は、選択肢が限定されていることにある。管理職であり直接保育室の装飾にあたらぬJさんを除いて、今回インタビューに協力してくれた保育者は、かわいいものを用いると思うか否かに関わらず保育雑誌等を参考にしていた。保育者が参考にしていた雑誌は、『PriPri』や『Piccolo』といったかわいい壁面イラストを売りにした保育雑誌である。これらの見本群から作品を選ぶために、どれを選ぼうとも、結果的に作られたものがかわいい壁面構成になる、ということが最大の理由であるといえる。保育雑誌や製作参考書が、保育者の見解や意図によって選ばれる製作物の選択肢を限定していたのである。

その結果、かわいい、本物に近いなどの言葉も字義通り理解することが困難な状況が生じている。

たとえば目の大きさとか、こっちのほうはおっきいのでかわいく見えるっていうところと、あとは衣装がこっちはまあ、これは別に変えてもいいと思うんですけど、たとえばこっちはちょっとピンクなんですけど、こういう和柄入れて、何かこう本物っぽい着物に近いものだったりとかするんですかね。で、目もこう白かったり黒かったりで、どっちかといえば本物に近い目でした。(I)

例は、年少と年長で選ぶ見本が異なることの説明であるが、どちらも同じ製作参考書に掲載された見本で

あり、キャラクターのデザインなどが本物に見えるというわけではない。見本の間の差異がここでの本物っぽさを構成しているのであり、選択肢がより広範囲であれば、本物らしさに対する認識も変わりうると予想される。このような発想に類似するものとしては、動物のキャラクターから人間の使用へと年少から年長の間に配慮されているケースがあり (A)、これも選択肢の限定によって説明できる。

3.3.2. 保育者の好み、子どもの製作、簡単さ

作品群からどのように製作するものを選ぶか、という聞き方をしていくことで、保育者が主に基準としているのは、保育者の好み、子どもの製作可能性、簡単さの3つであることが明らかになった。

かわいいものを使用する際に、自分の好みに影響していることに触れた保育者は7名いた (B, D, E, F, G, H, K)。たとえば、Gはかわいいものを選ぶとしたうえで、その理由を自分の趣味と関連させて説明している。

あからさまに自分の趣味じゃない、趣味でもないけど自分は作りたくないものを作ってって言われて作るのと、自分は作りたい、かわいくて作りたいたいと思って作るのでは、能率も違いますよね。(G)

保育者たちは、かわいいものをなぜ用いるかという質問では子どもにとっての意義を説明しようとしていたが、実際に何かを製作する過程をたどる場合、自分の好みによって製作物を決定しているのである。

しかし、これはただ保育者の好みのみが考慮されているということは意味しない。ほぼ同程度か、あるいは最大の選択理由として、子どもの製作する物を考慮して壁面製作の題材を選ぶとした保育者も7人おり、そのほとんどが好みによって選択すると述べた保育者でもあった (C, D, E, F, G, H, K)。

まず、子ども達の製作を何にするか考えるんですね、その歳に合わせて。で、まあ、この壁面がいいなって思ったら、…(中略)…こう壁面【の見本：筆者補足】があるじゃないですか。で、じゃあ作ろうって思うんですけど。個人的に、何かこの顔が嫌とか、この周りの色が嫌ってなったら、それを自分でオリジナルで変えたりとか、ここにもっと付け足したりとかはしています。(E)

保育者たちは、どのような活動をさせたいか、何を感じてほしいかなど子どもの教育に資する面に気を配りながら製作物を決定しているといつてよいだろう。ただし、その壁面に何らかのかわいさが求められる場合には、自分たちの好み優先されることになる。

また、保育者は自分の好みや子どもの製作物だけでなく、仕事量や手間も考えて、簡単さも重視している。それは、「結局、家に持ち帰ってきてとか、しこしこやってたり」(A) というように、壁面構成の準備などは、仕事時間外に行われる持ち帰りの仕事にしばしばなるからである。保育雑誌等が参考にされるのは、簡単に見栄えのいいものを作る便利さが関係している (B, H, K)。結果的に、保育者は保育雑誌を頼ることになる。

まずは、もう自分の都合としてすぐにできるもの。あんまり複雑だと、時間かけて作ってることもできないので、簡単に作れて、その季節感じられて、やっぱり、見栄えがするっていうか、かわいらしいもの。あとは子ども。子どもが作ったものを飾ったりするので、子どもの作品として子どもができそうなものとか。そういう観点で選んでいます。(K)

保育者たちは、保育雑誌等を参考にすることで、かわいい壁面構成を行っている。これは、かわいいことを強く目指した結果ではなく、それらによって簡単に、自分の好みにも合うものを作るからであり、またさまざまな製作例なども参照できるからであろう。そのなかでも、かわいいものを選ぶという点に関しては、子どもが喜ぶであろうことを前提としてはいるものの、子どもを意識してというよりも保育者自身の好みによって決定がなされている。

3.3.3. 保護者の評価

ほとんどの保育者は、多くの子どもが好きだという認識か、自分の好みによって、かわいいものを用いていた。園バスなどのイラストなどを例に、保護者に対してのアピールのために用いているのではないかと、という推測もあるが、基本的には重要な動機とはなりえないだろう。今回のインタビューでも、Dさんだけが保護者の評価について言及していた。

やっぱり玄関とかにもいろいろ飾られて、かわ

いいものが貼られてると、先生たち頑張っていい幼稚園だねって。もしかしたら、そっちに時間かけるより、子どもがすごく充実して遊べるものを準備したほうが子どものためになってるかもしれないんだけど、保護者はそこは見えないので、見えるところに飾ることで信頼関係は築けるっていうところもあるかもしれないですね。(D)

この例にあるように、保護者の評価が影響するとすれば、それは個々の作品ではなく園がどのような場であるかに関してであろう。構造的には園イメージを規定しており、かわいいものの使用に影響する要因ではあるが、保育者の選択レベルや説明レベルで意識されることは少ないといえる。

3.3.4. 保育でのかわいいもの使用に対する評価

これまでどのようにかわいいものが選択されるかについて確認してきたが、保育者はかわいいものに対してどのような評価をしているのだろうか。

発言内容から単純に態度を分類すると、肯定的 (A, B, E, G, I, K), ややためらいがある (C, D, H), 否定的 (F, J) に大別できる。肯定的な保育者やややためらいがある保育者のなかにも使用に対する積極性の差は大きく、かわいいものをかなり評価しつつもためらいを感じるものや、肯定はしているもののあまり用いようとしなないものなどに分かれる。

もっとも積極的にかわいいものにこだわりを見せていたのはEさんであり、園内の装飾や壁面構成以外に積極的に言及していた唯一の人物であった。

子どもが見てかわいって思ってくれるようなハンカチとか、あと髪型も毎日変えてみたりとかはしてます。何か今だったら、三つ編みしてたら「アナみただね」って言って、真似してくれる子もいたりするので、そういうので、何か話題を膨らませられればなと思って。…(中略)…保育の学校にいた時に実習に行ったときは、エプロンとかそういうのは、もうキャラクターの子どもがかわいって思ってくれるものを身に着けてました。(E)

Eさんの場合は、製作参考書の影響などによる結果的な使用に留まらず、積極的にかわいいものを取り入れようとしている。ただし多くは「かわいくないよりはかわいいほうがいいかなっていうのはありますね」

(D) 程度の肯定の度合いである。

一方で、かわいいものの使用を評価していても、ややためらいのある保育者も存在していた。そのような発言には、子どもの個性を尊重するという趣旨が共通している。

こういう【壁面のイラストのような：筆者補足】方向に摺り寄せて行かないで、その子その子の形とかがあるので、そこを大事にしていけないといけないところもあるんですけども、結局何か、絵とか描いてもこう、私たちがこういうものを作るからっていうものもあるかもしれないんですけども、何かわからないものを描く時とかは、そこに貼ってあるものを見て、ああこんな感じって思うところもあるかもしれないですね。(C)

いや、私はかわいいものだけにこだわりたくないかもしれない、逆に。これ【装飾の壺：筆者補足】を見て何かを感じる子がいたら、それはそれでいいと思うし、本当にかわいらしいキャラクター的なものばかりが好きなお子ももちろんいるかもしれないし。(H)

かわいものもいい、と積極的に思っていたとしても、かわいもの以外への興味も大切にしたいと考えることは矛盾するものではなく、かわいものであることはそれほど重要には考えられていない。

また、キャラクターのようなかわいさに関しては、年齢による使い分け (A, F, I) や子どもの製作物かわいいと見做すことによって抑制される部分がある (J, K)。保育者たちは年少ではよりかわいものを用いようとするが、年齢が上がるにつれてより現実に近いものを使用したほうがよいと考えるようである。さらに、子どもの作品をかわいと思えることは、かわいものの使用を抑制する。

でも私、基本子どもの作品かわいと思ってるので。…(中略)…子どもの絵ってすごい素直じゃないですか。大人って見たまま描こうとするけど、子どもの絵って自分の思いがすごい出てくる。…(中略)…その時楽しかった思いとか、びっくりした思い、気持ちとか、そういうのが絵に出てくるから、そこだけやたら強調されて描かれたりとかするんですよ。(K)

大人が選ぶかわいさとは別のかわいさが認められる場合には、保育において子どもの作品が尊重され、結果的に保育雑誌のイラストのような表現以外が尊重されることになる。

最後に、限られてはいるが、かわいいものをあまり用いようとする保育者たちも存在する。

全ての子どもがそのかわいっていうものを好きだとは思わないので、幼稚園だからとか、ちっちゃい子だからかわいいものを使うっていうのは、あんまり自分のなかでは納得いかないというか、何かそんな気はしますけど。(F)

幼稚園さんに行ったとしても、こう玄関に、かわいい、何かマットとかぬいぐるみとか何かそういうのがあるんですが、それに関して、自分では、ここだけの話ですが、かわいいと感じたことはないです。(J)

FさんやJさんから出されているのは、幼稚園だからかわいいものがある、というような保育の場でかわいいものが望ましいというイメージ自体への疑問である。Fさんの場合は、既に見てきたように子どもそれぞれで好みが異なっているという子ども理解が、Jさんの場合、ものがかわいいということ自体に教育としての積極的な価値を見いだせないことが、かわいいものの使用に対する否定的な評価につながっている。

かわいいものの使用に対しては、どの程度評価するか、またそれに対してのためらいがあるかを問わず、多くの保育者が評価しているといえるだろう。かわいいものの使用に否定的な態度を取る者は既存の園イメージに対する疑問を伴っていたことから、保育の場にかawaiiものがあるイメージがある以上、否定的な人は少数派であるといえよう。多くの保育者は、改めて問われればためらいを感じることはあるとしても、保育でかわいいものが使われることを子どものため、あるいは自分の趣味に合うものとして肯定している。また、季節の変化や行事などに気づかせたいなどの見解はあるものの、かわいいものを用いることはそのような気づきに関連していない。かわいいかどうかは、かわいいものの使用を肯定する人たちにとって教育的な価値とは独立した基準となっている。

4. おわりに

本研究では、保育者へのインタビューから、保育に

おいてなぜかわいいものが用いられるのかを検討してきた。

まず、保育者の保育観との関連としては、保育で安心感や楽しさを重視することと、かわいいものが安心感や楽しい雰囲気構成することとの間に類似が認められる。保育者は、保育で大切に作る雰囲気を作り出すものとして、かわいいものの効果を利用しているようである。

子ども観との関連では、一般的に考えられるような子どもがかawaiiからかawaiiものがふさわしい、という発想法は確認できなかった。子ども観との関連としては、保育者たちが子どもの個別性を十分理解しつつも、平均的な子どもを想定することで、多くの子どもが好むと予想できるかわいいものを選ぶということを指摘できる。

また、かわいいものを積極的に選ぶという側面以上に、かわいいものの使用に関しては実際の壁面構成の選択では保育雑誌等の影響が大きい。保育室を装飾する保育者たちは、かわいいものに対する評価に関わらず保育雑誌や製作参考書を参照し、その中から、保育者の好み、子どもの製作物、簡単さの3点を基準に望ましいと思う壁面を製作していた。基本的には保育者の好みによってかわいいものが選択されており、子どもの製作のように教育的な観点と並列して、どのような壁面を作るかが好みによって決定されている。

部分的にためらいを感じる保育者もいるものの、かわいいものを用いることは保育の場のイメージを背景として広く肯定されていた。かわいいものを用いることを評価しない保育者は、かわいいものがある場所としての園のイメージ自体に疑問を呈していた。

これらから、園のイメージや子どもは平均的にかわいいものが好きだというイメージを背景に、保育雑誌や製作参考書を参照して壁面や製作物を選択することによって、保育者はかわいいものを選択していることが明らかになった。保育者たちは子どもの個々の好みや教育的観点から時折かわいいものの使用にためらいを感じるものの、保育の場でかわいいものが用いられているという認識をベースにしているため、かわいいもの使用自体に疑問をもたない限りは、望ましいものとしてかわいいものを選択しているのである。

謝辞

本研究はJSPS 科研費25780460の助成を受けたものです。また、お忙しい中、貴重な時間を割いて本研究にご協力いただいた保育者の皆さまに心より感謝いた

します。

注

- 1) 伊藤明美「“かわいい”絵本」福音館書店『母の友』612, 2004, p. 84。
- 2) 同前書。
- 3) 同前書。
- 4) 中村証子「絵本・子ども・保育 3「かわいい」絵本」福音館書店『母の友』653, 2007, p. 31。
- 5) 同前書, p. 38。
- 6) 同前書。
- 7) 同前書, p. 39。
- 8) 同前書。
- 9) 石井咲子, 大石真理子, 佐田真有子, 山城恵子, 佐々木由美子「一座談会—幼児にとって「かわいい」とは」日本児童文化研究所 編『子どもの文化』第43巻第6号, 2011, p. 32。
- 10) 同前書, p. 34。
- 11) 同前書, p. 32。
- 12) 中澤潤, 中道圭人, 大澤紀代子, 針谷洋美「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」『千葉大学教育学部研究紀要』第53巻, 2005, p. 202。
- 13) 同前書。
- 14) 櫻井(2008)は、『世界カワイイ革命』において、「カワイイ」という日本語が世界語化している。女性を中心にした若者のあいだでは、すでに翻訳の必要がまったくない言葉になりつつある。…二一世紀に入って世界的にもっとも広がった日本語は、まちががなく「カワイイ」だろう(p. 14)と指摘している。一方で、1990年代にいち早く「かわいい」に関する論考を表した島村(1991)や増淵(1994)では、「かわいい」を女性発の文化ととらえる(島村, p. 225; 増淵, p. 218など)と共に、それら完全に肯定的には位置づけられないでいる。島村はそのパワーや価値をみとめつつも、かわいいを保守的であり、「限りなく受動的で、非創造的な趣味・嗜好」(pp. 211-212)と考えるし、かわいいものが好きな日本の女性を幼稚とみる欧米人の件かきを内面化している(p. 15)。増淵も、「かわいい」を「美しい」などに劣るB級価値概念に過ぎないと見做している(p. 18)。また、「かわいい」が一時的な価値に終わる可能性についても両者とも意識している(島村, p. 248; 増淵, p. 212)。

- 15) 三木慰子「幼児教育とキャラクター考」『大阪青山短期大学研究紀要』第31号, 2006, p. 19。
- 16) 同前書, pp. 23-28。
- 17) 同前書, p. 28。
- 18) 武内裕明「幼稚園教育実習生の保育観」中国四国教育学会『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第59巻, 2014, pp. 175-180, 武内裕明「幼稚園の実習生は何を手掛かりに保育を構想するのか:ぶどうに目をつけた製作場面に関するインタビューから」『弘前大学教育学部紀要』第111号, 2014, pp. 121-128。
- 19) 本研究では、過去数年のかわいいをタイトルに含む壁面構成の製作参考書の実例を示すことで、かわいいとされる対象を視覚的に限定し、議論でも保育の場で用いられる主要なかわいいものである壁面構成を話題の中心とした。

文献

- 石井咲子, 大石真理子, 佐田真有子, 山城恵子, 佐々木由美子「一座談会—幼児にとって「かわいい」とは」日本児童文化研究所 編『子どもの文化』第43巻第6号, 2011, pp. 29-35。
- 伊藤明美「“かわいい”絵本」福音館書店『母の友』612, 2004, pp. 82-85。
- 増淵宗一『かわいい症候群』日本放送出版協会, 1994。
- 三木慰子「幼児教育とキャラクター考」『大阪青山短期大学研究紀要』第31号, 2006, pp. 15-30。
- 中村証子「絵本・子ども・保育 3「かわいい」絵本」福音館書店『母の友』653, 2007, pp. 30-39。
- 中澤潤, 中道圭人, 大澤紀代子, 針谷洋美「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」『千葉大学教育学部研究紀要』第53巻, 2005, pp. 193-202。
- 櫻井孝昌『世界カワイイ革命』PHP 研究所, 2009。
- 島村麻里『ファンシーの研究』ネスコ, 1991。
- 武内裕明「幼稚園教育実習生の保育観」中国四国教育学会『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第59巻, 2014, pp. 175-180。
- 武内裕明「幼稚園の実習生は何を手掛かりに保育を構想するのか:ぶどうに目をつけた製作場面に関するインタビューから」『弘前大学教育学部紀要』第111号, 2014, pp. 121-128。

(2015. 1.15 受理)